

# 2016年3月期 決算説明会

2016年5月16日

日本光電工業株式会社

証券コード : 6849

<http://www.nihonkohden.co.jp>



# 当期決算の概要(連結)

# 1) 当期の決算概要

(単位:百万円、単位未満切捨て)

	前期 2015/3	当期 2016/3			対前期増減率 (%)
		期初予想	前回予想*	実績	
売上高	160,803	172,000	167,000	165,522	2.9
国内売上高	122,490	126,000	121,000	121,989	△ 0.4
海外売上高	38,313	46,000	46,000	43,533	13.6
営業利益	15,921	18,000	16,500	16,438	3.3
経常利益	17,234	18,000	16,800	16,116	△ 6.5
親会社株主に帰属する 当期純利益	11,142	12,100	10,700	10,516	△ 5.6

← 為替影響除く:+7%

2015/3	2016/3
粗利率: 48.4%	→48.8%
販管費率: 38.5%	→38.9%

2015/3	2016/3
為替差益	為替差損
818百万円	→ 911百万円

平均レート	(2015/3)	(2016/3)
1ドル	109.6円	120.1円
1ユーロ	139.4円	132.4円

※2015/11/4 第2四半期決算発表時の予想数値

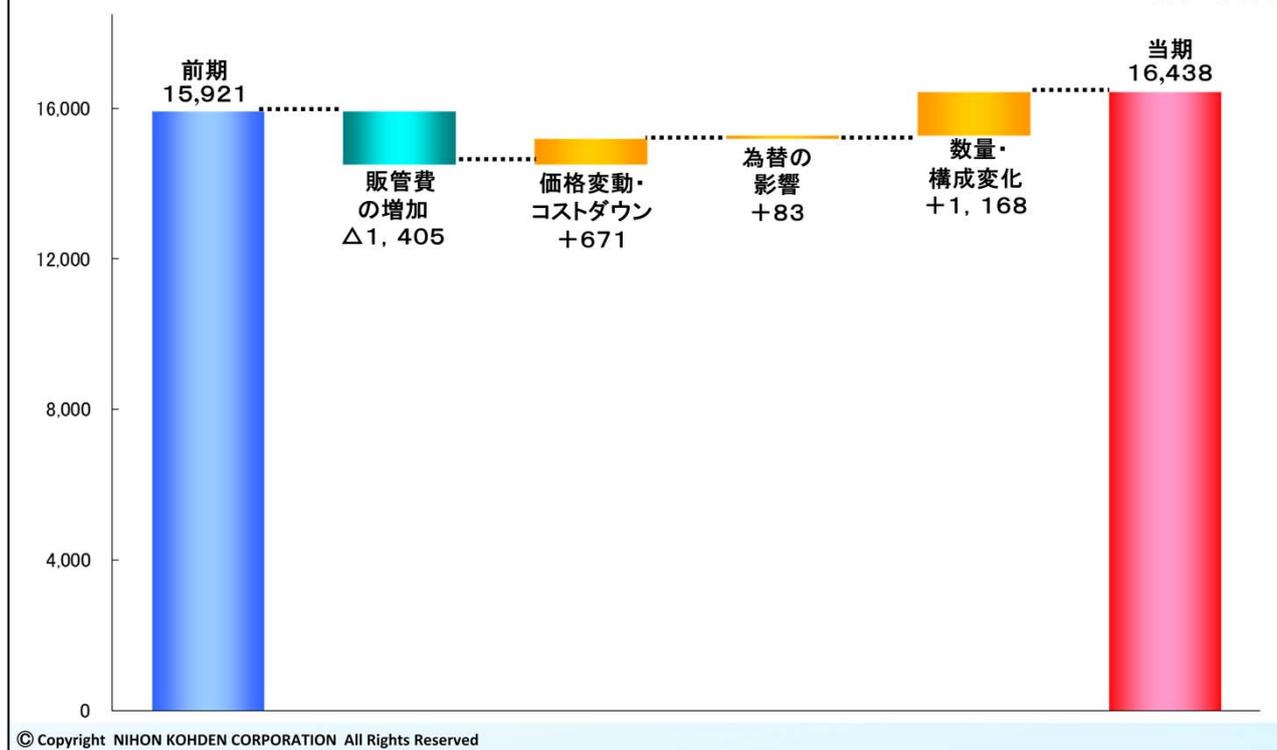
© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

2

- 売上高は、2.9%増の1,655億円となりました。
- 国内売上高は、上期は減収となりましたが、下期に回復し、前期並みの1,219億円となりました。
- 海外売上高は、全ての地域、全ての商品群で伸ばし、13.6%増の435億円となりました。現地通貨ベースでは、7%の増加となりました。
- 前回予想に対しては、国内は上回りましたが、海外が一部新興国における景気減速などの影響を受けたため、全体で15億円下回りました。
- 営業利益は、増収効果に加え、自社品の販売強化で粗利率が改善したことから、3.3%増の164億円となりました。売上は未達でしたが、販管費の抑制に努め、前回予想並みとなりました。
- 経常利益は、為替の影響が差損に転じたため、6.5%減の161億円、純利益は5.6%減の105億円となりました。

## 2) 営業利益増減の要因分析

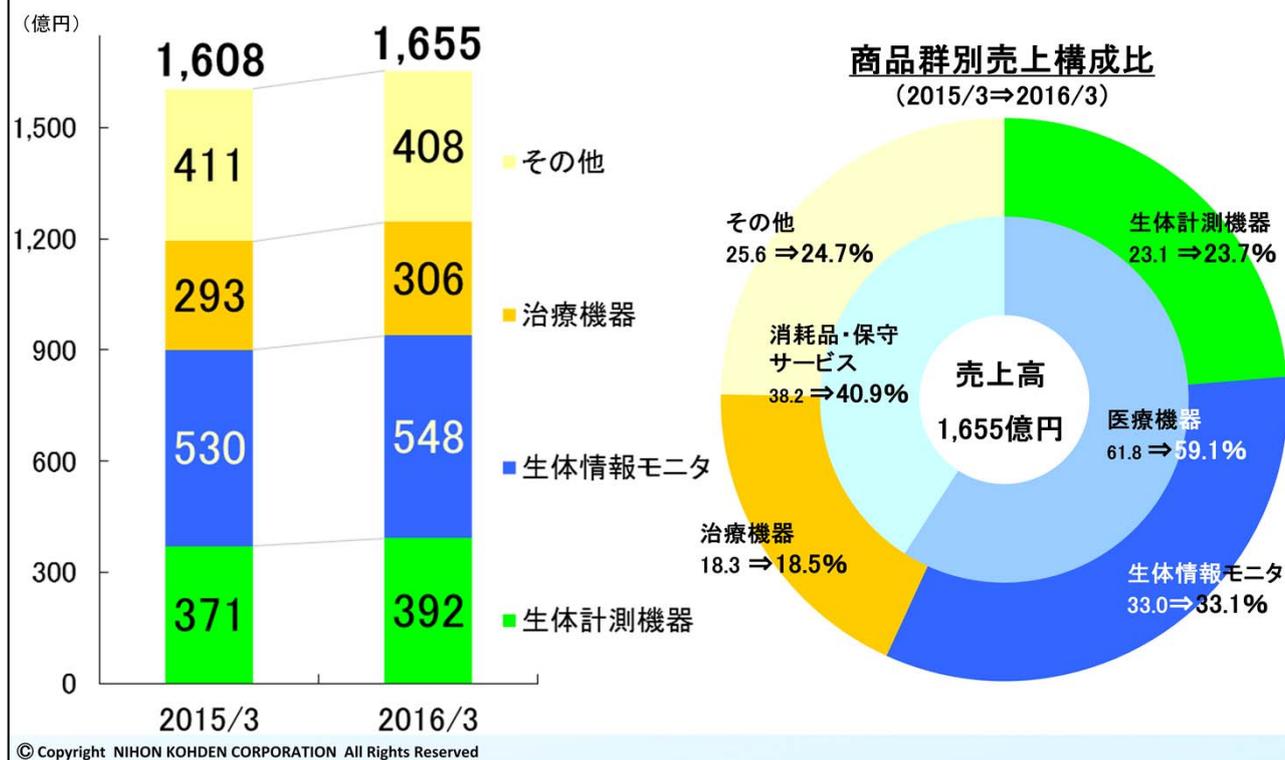
(単位:百万円)



3

- 営業利益が、前期の159億円から164億円に増加した要因について、ご説明します。
- 販管費につきましては、主に海外の体制強化に伴う人件費が増加し、14億円のマイナス要因となりました。
- 価格変動・コストダウンにつきましては、売価の下落をコストダウンが吸収し、6億円のプラス要因となりました。
- 為替の影響につきましては、ドルに対し円安が進んだことから、8,300万円のプラス要因となりました。
- 数量・構成の変化につきましては、数量増加に加え、国内の商品ミックスが改善し、11億円のプラス要因となりました。

### 3) 商品群別売上高



- 商品群別では、その他商品群を除き、売上を伸ばすことが出来ました。
- 医療機器と消耗品・保守サービスの割合では、消耗品事業の強化を受け、消耗品・保守サービスの割合が40.9%へ増加し、安定収益につながっています。

## 3.1) 生体計測機器

(単位:百万円)

	前期 2015/3	当期 2016/3	増減率(%)	(参考) 比較可能 ベース
脳神経系群	9,913	8,200	△ 17.3	△ 0.5
心電計群	7,376	7,163	△ 2.9	
心臓カテーテル検査装置群	9,561	11,254	17.7	
その他(診断情報システム等)	10,329	12,599	22.0	5.0
<b>生体計測機器合計</b>	<b>37,180</b>	<b>39,218</b>	<b>5.5</b>	
うち国内売上高	28,452	29,944	5.2	
うち海外売上高	8,728	9,274	6.3	

【国内】前期を下回る  
【海外】区分変更の影響を除くと堅調

【国内】前期を下回る  
【海外】欧州、アジア州で堅調

【国内】電極カテーテルの売上が伸長。  
新商品も寄与

※その他には、診断情報システムや他社製の生体計測機器を含みます。米国販売子会社ERP導入に伴い、2016/3期から、従来「脳神経系群」に区分していた現地インストール品を「その他(診断情報システム等)」に区分しています。



脳波計 EEG-1250



心電計 ECG-2300

New!



臨床用ホリグラフ RMC-5000

- 「生体計測機器」は、全体で5.5%増の392億円となりました。
- 国内では、脳神経系群、心電計群は前期を下回りましたが、心臓カテーテル検査装置群、診断情報システムが好調に推移し、5.2%増の299億円となりました。
- 海外では、脳神経系群は、米国における区分変更の影響で前期を下回っていますが、実質ベースでは米州、アジア州で堅調に推移しました。心電計群は欧州、アジア州で堅調に推移しました。この結果、6.3%増の92億円となりました。

## 3.2) 生体情報モニタ

(単位:百万円)

	前期 2015/3	当期 2016/3	増減率(%)
生体情報モニタ合計	53,068	54,823	3.3
うち国内売上高	35,334	34,616	△ 2.0
うち海外売上高	17,734	20,207	13.9

← 前期の私立病院市場における需要の反動もあり、減収  
 ← 米州、アジア州で好調・新商品も寄与



ベッドサイドモニタ  
CSM-1901

New!



新興国向け  
ベッドサイドモニタ  
SVM-7500シリーズ\*

New!



バイタルサインテレメータ  
GZ-130P

New!



SpO<sub>2</sub> プローブ  
CO<sub>2</sub>測定用 酸素マスク  
心電図 電極

消耗品関連

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

6

- 「生体情報モニタ」は、全体で3.3%増の548億円となりました。
- 国内では、大学病院市場は下期に入って回復が見られましたが、私立病院市場における前期の特需の反動が大きく、2%減の346億円となりました。
- 海外では、欧州は前期の大口商談の影響で下回ったものの、米州、アジア州が好調に推移し、新商品も寄与したことから、13.9%増の202億円となりました。

## 3.3) 治療機器

(単位:百万円)

	前期 2015/3	当期 2016/3	増減率(%)
医科向け除細動器	5,410	5,670	4.8
A E D	12,680	13,825	9.0
ペースメーカー・ICD	2,935	2,914	△ 0.7
人工呼吸器	1,809	1,790	△ 1.0
その他	6,556	6,410	△ 2.2
治療機器合計	29,393	30,611	4.1
うち国内売上高	21,889	21,584	△ 1.4
うち海外売上高	7,504	9,027	20.3
(参考)AED販売台数	83,300	87,500	5.0
うち国内販売台数	47,600	48,800	2.5

【海外】米州、欧州、その他地域で好調

【国内】増設・更新需要の取り込みにより販売台数増。新商品も寄与

【海外】全ての地域で好調  
デフィブテック社製、日本光電製ともに好調

【国内】人工内耳の仕入先変更の影響もあり減収

除細動器  
TEC-5600シリーズAED  
AED-3100心臓ペースメーカー  
Zenex MRI人工呼吸器  
HAMILTON-C1麻酔器  
Leon plus

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

7

- 「治療機器」は、全体で4.1%増の306億円となりました。
- 医科向け除細動器は、米州、欧州、その他地域で好調に推移し、4.8%増の56億円となりました。
- AEDは、デフィブテック、日本光電ともに、全ての地域で好調に推移しました。販売台数は87,500台、売上は9%増の138億円となりました。
- 国内は、その他に含まれる、人工内耳の仕入先変更に伴う減収もあり、1.4%減の215億円となりました。
- 海外は、20.3%増の90億円となりました。

## 3.4) その他

	前期 2015/3	当期 2016/3	増減率(%)
検体検査装置	9,751	11,382	16.7
画像診断装置、研究用機器他※	31,408	29,485	△ 6.1
その他合計	41,160	40,868	△ 0.7
うち国内売上高	36,814	35,843	△ 2.6
うち海外売上高	4,346	5,024	15.6

(単位:百万円)

【国内】診療所市場で血球計数器、臨床化学分析装置が好調

【海外】アジア州、その他地域で血球計数器が増収。特にインド、中近東が好調

【国内】自社商品の販売強化策により、現地仕入品が減収

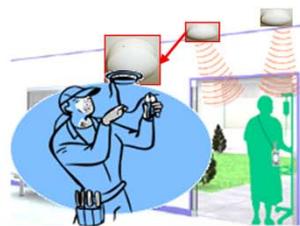
※他の商品群に分類されない、消耗品や設置工事・保守サービスを含みます。



全自動血球計数器  
MEK-6500



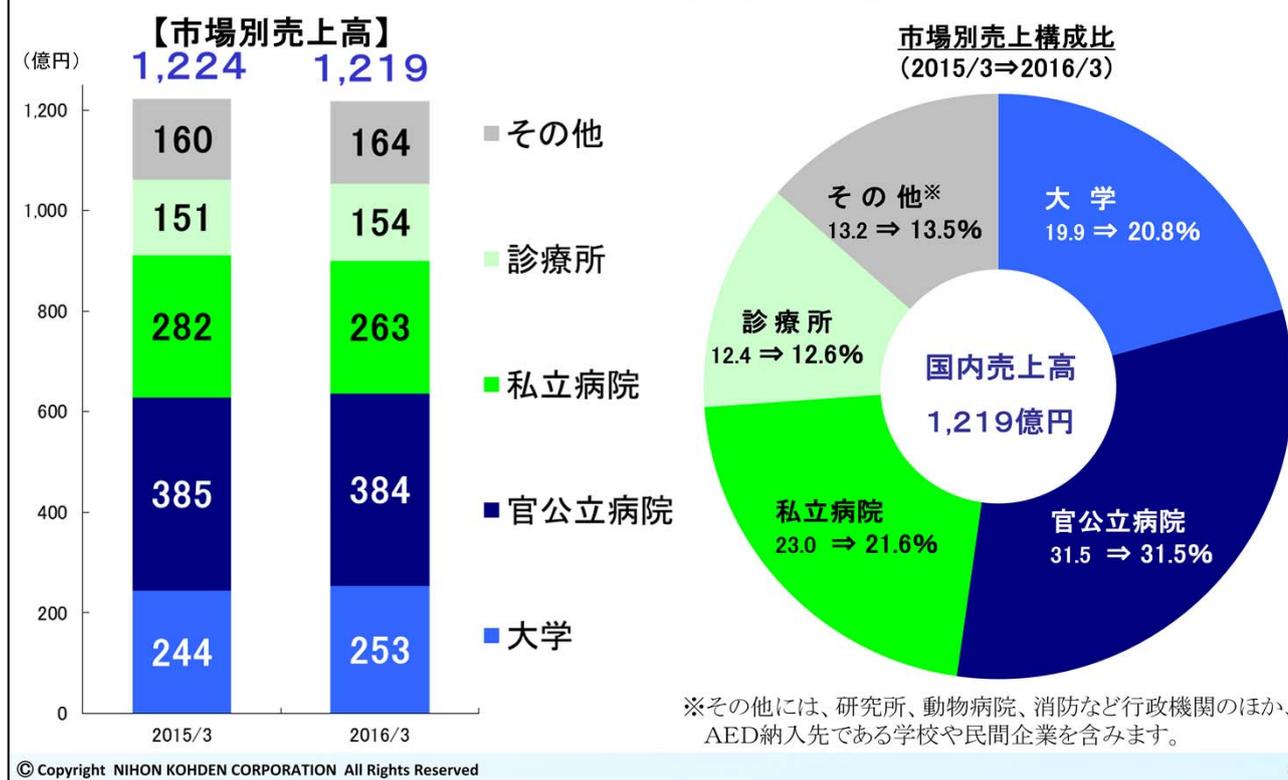
臨床化学分析装置  
CHM-4100



設置工事・保守サービス

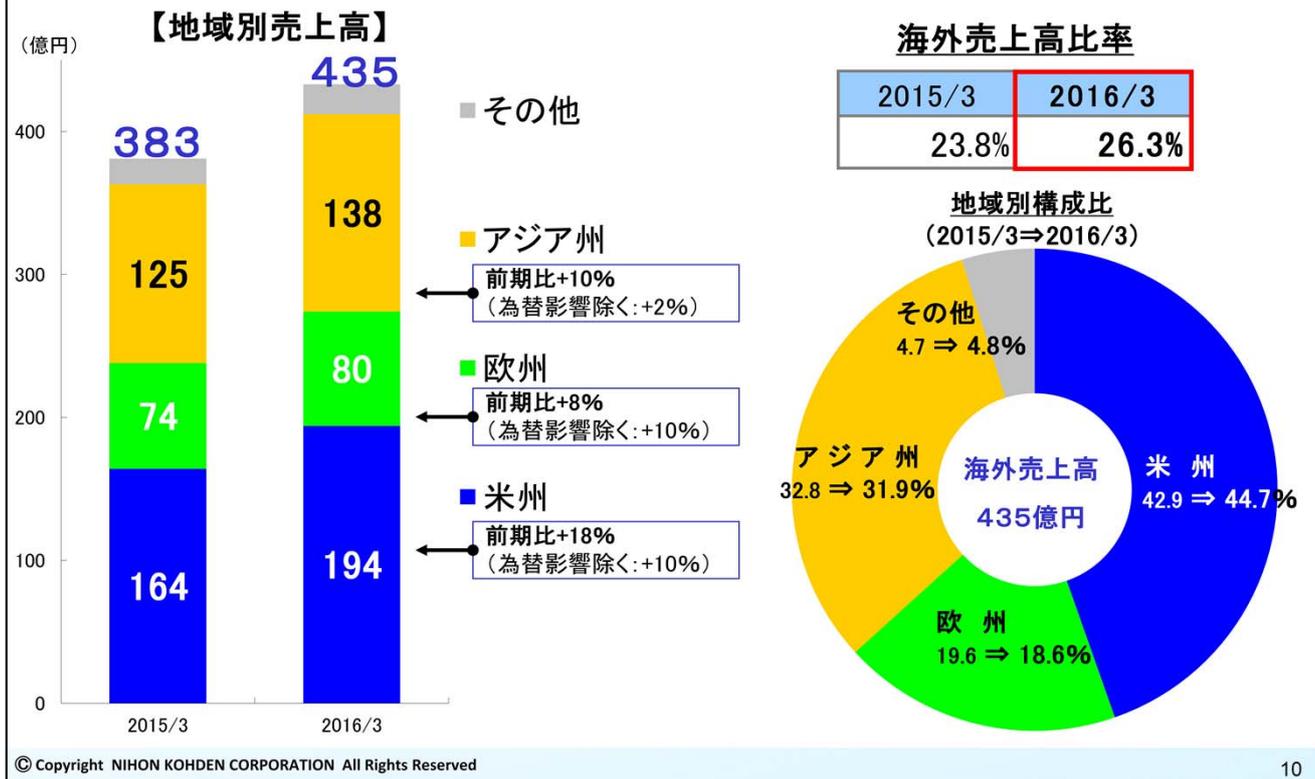
- 「その他」は、全体で0.7%減の408億円となりました。
- 国内では、診療所で、血球計数器、臨床化学分析装置が好調に推移しました。一方、自社商品の販売強化策により現地仕入品が減収となり、2.6%減の358億円となりました。
- 海外は、アジア州、その他地域で、血球計数器が増収となりました。特に、インド、中近東が好調に推移し、15.6%増の50億円となりました。

## 4) 国内売上高



- 国内売上高は、5億円減の1,219億円となりました。
- 大学病院市場は、下期に入って設備投資に回復の傾向が見られ、堅調に推移しました。
- 官公立病院市場も、下期は回復傾向に転じましたが、前回の診療報酬改定や消費税率引き上げの影響が残り、前期並みにとどまりました。
- 私立病院市場は、前期の特需の反動もあり低調に推移しました。
- 診療所市場は、引き続き需要が増加していることや、新規開業支援の効果もあり、堅調に推移しました。

## 5) 海外売上高



10

- 海外売上高は、52億円増の435億円となりました。
- 現地販売・サービス体制の強化や、消耗品の拡販が奏功し、全ての地域、全ての商品群で売上を伸ばすことが出来ました。
- 米州では、中南米は前期並みにとどまりましたが、米国が大きく伸び、30億円増の194億円となりました。現地通貨ベースでは、10%増加しています。
- 欧州では、組織再編による販売・サービス体制の強化が奏功し、ドイツなど西欧諸国を中心に好調に推移したことから、6億円増の80億円となりました。現地通貨ベースでは、10%増加しています。
- アジア州では、インド、韓国、中近東が大きく伸び、中国も前期を上回ったことから、13億円増の138億円となりました。現地通貨ベースでは、2%増加しています。
- 海外売上高比率は、26.3%となりました。

## 6) 財政状態

(単位:百万円)

	前期末 2015/3	当期末 2016/3	増減額									
流動資産	118,389	112,929	△ 5,459	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>2015/3</th> <th>2016/3</th> <th>増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>有価証券(譲渡性預金)</td> <td>21,000</td> <td>11,000</td> <td>△10,000</td> </tr> </tbody> </table>		2015/3	2016/3	増減	有価証券(譲渡性預金)	21,000	11,000	△10,000
	2015/3	2016/3	増減									
有価証券(譲渡性預金)	21,000	11,000	△10,000									
固定資産	28,366	31,340	2,974	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>有形固定資産</td> <td>12,211</td> <td>15,695</td> <td>+3,484</td> </tr> </tbody> </table>	有形固定資産	12,211	15,695	+3,484				
有形固定資産	12,211	15,695	+3,484									
資産合計	146,755	144,270	△ 2,485									
流動負債	45,654	42,901	△ 2,752									
固定負債	1,797	3,697	1,900	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>退職給付に係る負債</td> <td>619</td> <td>3,164</td> <td>+2,545</td> </tr> </tbody> </table>	退職給付に係る負債	619	3,164	+2,545				
退職給付に係る負債	619	3,164	+2,545									
負債合計	47,451	46,599	△ 852									
純資産	99,304	97,671	△ 1,632	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>自己株式</td> <td>△2,029</td> <td>△7,472</td> <td>△5,442</td> </tr> </tbody> </table>	自己株式	△2,029	△7,472	△5,442				
自己株式	△2,029	△7,472	△5,442									
負債・純資産合計	146,755	144,270	△ 2,485									

- 総資産は25億円減少し、1,442億円となっています。

## 7) キャッシュフロー

(単位:百万円)

	前期 2015/3	当期 2016/3	増減額	
I 営業CF	12,505	10,765	△ 1,740	←
II 投資CF	△ 4,689	△ 7,802	△ 3,112	←
FCF	7,815	2,962	△ 4,852	
III 財務CF	△ 3,267	△ 9,488	△ 6,220	←
換算差額	756	△ 304	△ 1,060	
増減額	5,304	△ 6,829	△ 12,133	
期末残高	34,113	27,283	△ 6,829	

	2015/3	2016/3	増減
税金等調整前当期純利益	17,425	15,939	△1,486
有形固定資産の取得による支出	△3,174	△6,898	△3,723
自己株式の取得による支出	△2	△6,438	△6,436

- 期末残高は68億円減少し、272億円となっています。

## 8) 設備投資と研究開発費

(単位:百万円)

	前期 2015/3	当期 2016/3			増減額 (年度比較)	次期計画 2017/3
		期初計画	前回計画※	実績		
設備投資額	5,158	9,600	8,600	6,678	1,520	10,000
減価償却費	3,445	4,200	3,400	3,459	14	4,000
研究開発費	5,745	6,400	6,100	5,910	164	7,300

### ●設備投資の実績

新製品の「型」、計測器・治具、販促用製品、工場生産設備、所沢 総合技術開発センターの建設

### ●次期設備投資計画

新製品の「型」、計測器・治具、販促用製品、工場生産設備、富岡第二工場改修工事

所沢 総合技術開発センターの建設 { 完成・移転:2016年秋  
設備投資額:72億円 < 2016/3:34億円  
2017/3:38億円

朝霞 事業所の建設(免疫試薬部門の移転) { 完成・移転:2016年冬  
設備投資額:約11億円 < 2016/3:2億円  
2017/3:9億円

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

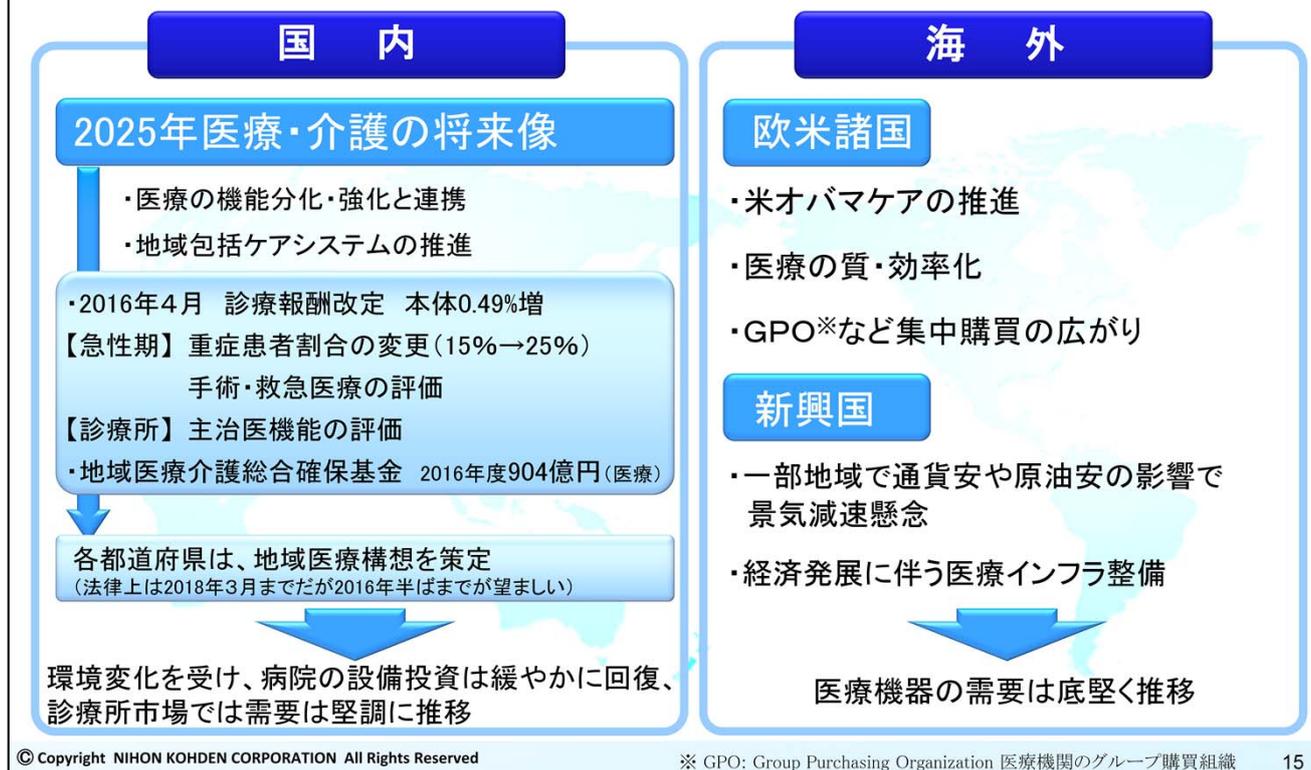
※2015/11/4 第2四半期決算発表時の予想数値 13

- 設備投資は15億円増の66億円となりました。計画との差異につきましては「型」投資の期ずれやERPシステムを中心とした投資の見直しによるものです。
- 減価償却費は前期並みの34億円、研究開発費は1億円増の59億円となりました。
- 次期の設備投資は、中期経営計画の予定どおり、総合技術開発センターや朝霞事業所などの大型投資を含むため、33億円増の100億円を見込んでいます。
- 減価償却費は5億円増の40億円、研究開発費は14億円増の73億円を見込んでいます。特に、新たに自社製人工呼吸器および麻酔器の開発に取り組んでおり、増加する見通しです。

# 次期業績見通し



# 1) 経営環境



- 国内では、2025年の医療と介護の将来像に向けて、医療制度改革が進められています。
- 4月の診療報酬改定では、本体が0.49%増となりました。急性期における重症患者割合が変更された一方で、手術・救急医療が評価され、診療所の主治医機能が評価された内容となったことから、病院市場の設備投資は緩やかに回復するとともに、診療所市場では需要が堅調に推移すると考えています。
- 海外では、新興国の一部地域で、通貨安や原油安の影響による景気減速が懸念されますが、欧米、新興国ともに、総じて、医療機器の需要は底堅く推移すると見えています。

## 2) 次期業績見通し

(単位:百万円)

	当期実績 2016/3	次期予想 2017/3	増減率 (%)
売上高	165,522	175,000	5.7
国内売上高	121,989	127,000	4.1
海外売上高	43,533	48,000	10.3
営業利益	16,438	17,500	6.5
経常利益	16,116	17,500	8.6
親会社株主に帰属する 当期純利益	10,516	11,500	9.3

海外売上高比率            26.3%      27.4%

平均レート

1ドル	120.1円	109円
1ユーロ	132.4円	123円

### 【地域別海外売上高】

	当期実績 2016/3	次期予想 2017/3	増減率 (%)
米州	19,455	21,300	9.5
欧州	8,084	8,700	7.6
アジア州	13,877	15,700	13.1
その他	2,115	2,300	8.7

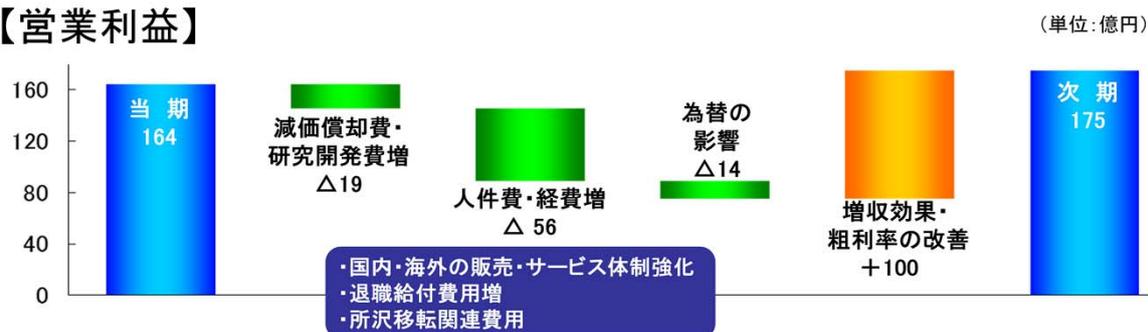
- 以上の市場環境を踏まえ、次期の業績見通しにつきましては、売上高は5.7%増の1,750億円、国内売上高は4.1%増の1,270億円、海外売上高は10.3%増の480億円を見込んでいます。地域別では特に、米州、アジア州に注力します。
- 営業利益につきましては、6.5%増の175億円を見込んでいます。
- 為替の前提は、ドルが109円、ユーロは123円です。

### 3) 次期業績見通しの要因分析

#### 【売上高】



#### 【営業利益】



© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

17

- 国内売上高は、病院・診療所向けは46億円、AEDは4億円増加する見込みです。AEDの販売台数は50,500台を見込んでいます。
- 海外売上高は、88億円の実質増、為替は43億円のマイナス影響を見込んでいます。
- 営業利益につきましては、減価償却費・研究開発費が19億円増加、人件費・経費が56億円増加する見込みです。国内・海外の販売・サービス体制の強化に加え、退職給付費用や所沢移転関連費用がかかる見通しです。
- 為替は14億円のマイナス影響と見ています。
- 増収と粗利率改善による効果は100億円を見込んでいます。

## [参考]商品群別売上高見通し

(単位:百万円)

	当期実績	次期予想	増減率(%)
	2016/3	2017/3	
生体計測機器	39,218	40,800	4.0
生体情報モニタ	54,823	59,250	8.1
治療機器	30,611	32,600	6.5
その他	40,868	42,350	3.6
売上高合計	165,522	175,000	5.7
(ご参考)			
消耗品・保守サービス	67,684	72,400	7.0

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

18

- 商品群別の売上高見通しについては、生体情報モニタを中心にシェア拡大を目指すとともに、安定収益につながる消耗品・保守サービス事業の取り組みを国内外で強化します。



# 当社の経営戦略

# 1) 長期ビジョンと中期経営計画

長期ビジョン (2010/4~2020/3)

The CHANGE 2020

-The Global Leader of Medical Solutions-



中期経営計画 (2013/4~2017/3)

Strong Growth 2017

全社一丸となって、力強く成長

国内事業の  
持続的成長

海外での  
飛躍的成長

成長を確実にするための基盤固め

2020年3月期

売上高 2,000億円以上

営業利益 250億円以上

営業利益率 12.5%

- 長期ビジョンでは、2020年3月期に、売上高2,000億円以上、営業利益250億円以上、海外売上高比率35%以上を目指しています。
- 次期は4ヵ年中期経営計画の最終年度となります。
- 国内の持続的成長と海外での飛躍的成長を実現し、長期ビジョンを達成するための成長基盤の構築に取り組んでまいります。

## 2) 中期経営計画の進捗 -3年の振り返り-

### 国内事業の持続的成長

- ・ 急性期病院、中小病院、診療所といった**市場別の事業展開**を強化
- ・ **消耗品・保守サービス**事業拡大により安定収益を確保



### 海外での飛躍的成長

- ・ 販売組織の再編、GPO/IDN※対策強化により**米国**でのプレゼンス向上
- ・ 販売網の拡大、上海光電製の充実により**新興国**で高成長を確保



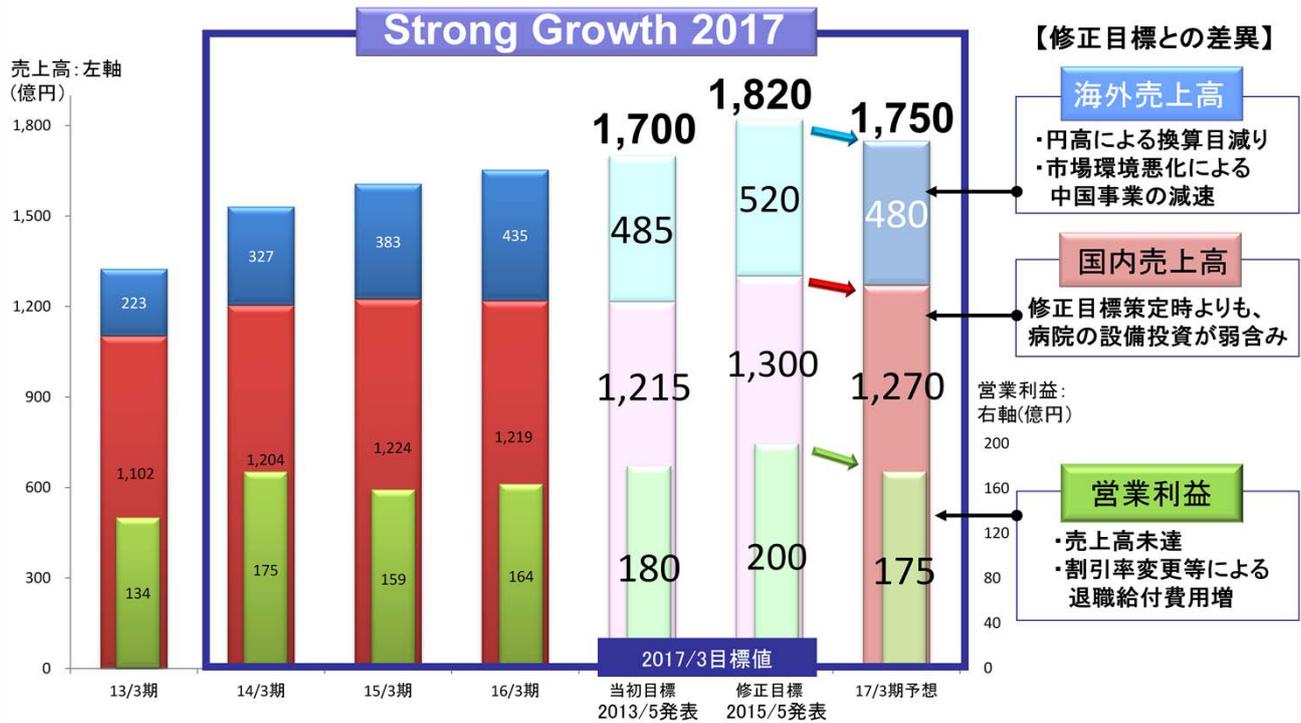
### 成長を確実にするための基盤固め

- ・ 競争力ある技術・製品を発売し、ポートフォリオを拡充
- ・ 米国に研究開発拠点、新興国に販売・生産拠点を設立
- ・ 富岡生産センター、総合技術開発センターの建設



- 中期経営計画の3カ年を振り返りますと、国内では、市場別の事業展開を強化するとともに、消耗品・保守サービス事業を拡大することで、安定収益の確保を目指してまいりました。
- 海外では、米国市場においては、販売体制を大幅に再編するとともに、GPO/IDNへの取組みを強化し、市場認知度、シェアの拡大に努めました。
- 新興国市場では、販売網の拡大や上海光電を活用した製品ポートフォリオの充実により、高成長を確保してまいりました。
- グローバルな成長を支える事業基盤として、米国の研究開発拠点、新興国の販売・生産拠点を拡充しました。
- マザー工場である富岡生産センターを稼働し、総合技術開発センターの設立を予定しています。

## 2) 中期経営計画の進捗 -最終年度予想-



- 中期経営計画の目標につきましては、前半2年が終了した時点で上方修正しましたが、その後、国内外で市場環境の変化があり、未達となる見通しです。
- 国内は、修正目標策定時よりも病院の設備投資が弱含みであるため、1,270億円の見通しです。
- 海外は、円高による換算目減りや中国事業の減速もあり、480億円の見通しです。
- 営業利益は、売上高の未達と退職給付費用の増加により、175億円の見通しです。

### 3) 中期経営計画 重要課題

世界トップクオリティの追求

グループ全部門の  
全ての活動で品質を確保

技術開発力の強化

地域別事業展開の強化

コア事業のさらなる成長

新規事業の創造

企業体質の強化

グローバル化・効率性/収益性・スピード  
を追求した経営

- 中期経営計画達成に向けて、現在取り組んでいる6つの重要課題のうち、「技術開発力の強化」と「地域別事業展開の強化」、「コア事業のさらなる成長」についてご説明します。

## 4) 2017年3月期の取り組み

### ① 技術開発力の強化

#### 総合技術開発センター への移転

技術競争力の強化と開発効率向上のため技術開発部門を移転・集約



総合技術開発センター  
(今年秋完成予定)      西武第二ビル  
(一部を賃借)

#### 生体情報モニタの 開発体制を重点強化

米国モニタ事業拡大のため、NKUSラボの開発体制を強化



- 現在、埼玉県所沢駅前に建設中の総合技術開発センターに、技術開発部門を集約し、技術開発力の強化・開発効率の向上を目指します。移転は5月から順次進め、年内に完了する予定です。
- 生体情報モニタ事業では、高い成長が期待される米国市場への展開を加速するため、NKUSラボの開発体制を強化します。

## ②コア事業のさらなる成長

2015年、2016年発売の主な商品

臨床検査機器事業

### 脳神経系群



術中神経機能  
モニタリング装置  
MEE-2000  
2015年米国発売、  
2016年国内発売予定



EEGヘッドセット  
2016年発売  
予定

### 生体情報モニタリング事業

バイタルサインテレメータ



GZ-130P  
2015年発売



新興国向け  
ベッドサイドモニタ  
SVM-7500シリーズ  
2015年発売



医用テレメータ  
WEP-5250  
2016年  
発売(国内)

### 循環器検査機器群



臨床用ポリグラフ  
RMC-5000  
2015年発売  
(国内)



心電計  
2016年発売予定

### 治療機器事業



自動心臓マッサージ装置  
RMU-1000  
2015年米国発売、  
2016年国内発売予定



救急車搭載  
除細動器  
TEC-2603  
2016年発売(国内)



### 検体検査機器



血球計数器  
2016年  
発売



高DNA量  
測定装置  
FCM-2200  
2015年発売  
(国内)

### 治療機器事業



CPRアシスト  
2016年  
発売予定



AED-3100  
2015年発売

センサ技術

### ITソリューション

### 消耗品・サービス事業

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

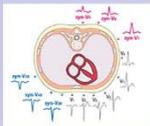
25

- 当社は、センサ技術を中心に、5つの事業領域に展開しています。
- 高い世界シェアを誇る脳神経検査機器、診断から治療までケアサイクルを統合する循環器検査機器、ポイント・オブ・ケアにフォーカスした検体検査機器、患者のバイタルサインを統合する生体情報モニタ、そして、国産唯一のAED・除細動器を有する治療機器です。
- ITソリューションや消耗品・サービスは、コア事業の成長を支える重要な共通要素となっています。
- 新商品をご覧のとおりです。

## ②コア事業のさらなる成長

### 導出18誘導心電図

synECG 18  
Synthesized Electrocardiogram



標準12誘導心電図のデータをもとに  
右側胸部と背部の6誘導を  
演算により導出



esCCO

心拍出量の非侵襲・連続モニタリング  
心電図とSpO<sub>2</sub>を使って推定

※ esCCO : estimated Continuous Cardiac Output

### 不整脈解析

ec1  
Arrhythmia Analysis



不整脈検出率の向上、  
誤アラームの低減を実現

日本光電  
独自の  
センサ技術

早くてやさしい血圧測定

iNIBP



※ NIBP : 非観血血圧

SpO<sub>2</sub>

NPi  
Pulse Oximetry

SpO<sub>2</sub>を測定するパルスオキシメータの  
原理を世界に先駆けて開発



cap-ONE etCO<sub>2</sub>  
ORAL NASAL EXPIRATION



CO<sub>2</sub>測定用  
酸素マスク

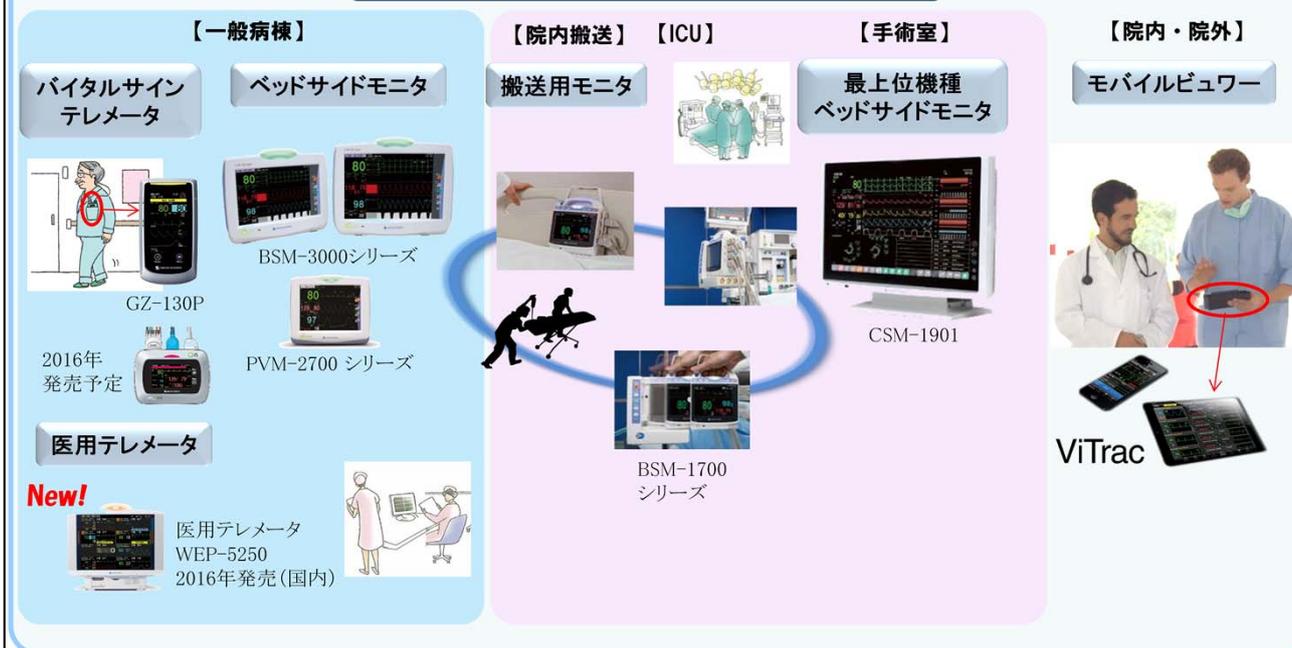
世界最小・最軽量クラス  
メインストリーム方式  
CO<sub>2</sub>センサ



- 当社は創業時から、ヒューマン・マシン・インターフェースをコア技術として、独自のセンサ、パラメータ技術の開発に注力してまいりました。
- これらの技術は、製品競争力を高めるのみならず、新たな臨床的価値を生み出し、医療技術の向上に貢献するものです。

# 生体情報モニタリング事業

## シームレスな患者ケアを実現



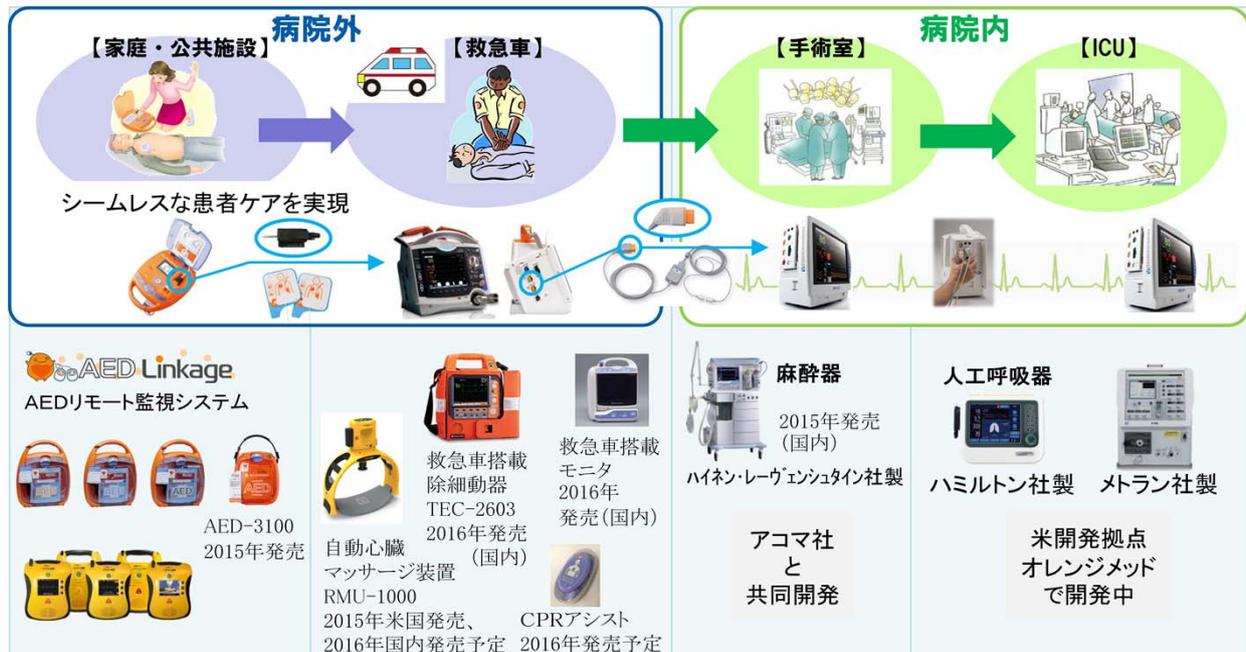
© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

27

- 成長を牽引する生体情報モニタでは、バイタルサインテレメータ、搬送用モニタ、最上位機種種のベッドサイドモニタ、モバイルビューワーを発売することで、次世代のプラットフォームが完成しました。現在、世界でも最先端のソリューションを提供しています。
- 新商品としては、医用テレメータを発売したほか、当社独自の血圧測定方式iNIBPを搭載したバイタルサインテレメータを予定しています。
- 生体情報モニタは、バイタルサインデータを統合するため、病院の高度化に果たす役割がますます重要になります。
- 当社独自のソリューションを提供し、グローバルな事業展開を加速してまいります。

# 治療機器事業

## サイト別に生体情報モニタリング事業との連携を強化



© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

28

- 治療機器では、院外から院内に至るまで、一連のケアサイクルソリューションを提供してまいります。
- 新商品としては、AEDや救急車向けの除細動器、モニターを発売しました。胸骨圧迫の速さや深さを救助者に伝えるCPRアシストも予定しています。
- デフィブテックが開発した自動心臓マッサージ装置は、既に米国で発売し、国内でも予定しています。
- アコマ社との提携により、麻酔器の共同開発、米国のオレンジメッドでは、人工呼吸器の開発を進めています。
- 治療機器は高い信頼性を要求されるため、医療機器メーカーとして、高い技術力、長期的な競争優位を獲得するために、戦略的にも、重要な挑戦であると考えています。

# 検体検査機器

## 新商品の投入

血球計数器

海外

国内



MEK-6500シリーズ



MEK-7300

## 最上位機種



MEK-9100 2016年発売

## 海外事業の拡大

臨床化学分析装置

国内

海外



CHM-4120  
CRPを測定



CHM-4100  
HbA1cとCRP  
を測定

CRP測定装置・試薬の  
 ・上海光電生産開始(2016年予定)  
 ・アジア展開開始(2016年度予定)

インド試薬製造・販売合弁会社を完全子会社化

免疫試薬部門の移転



© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

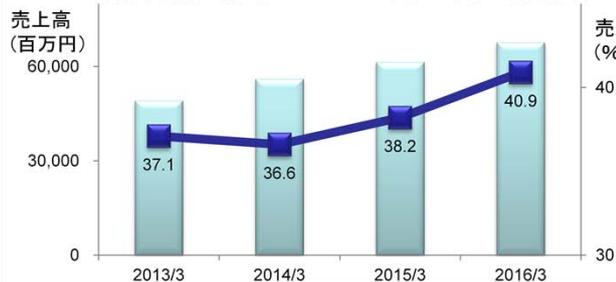
29

- 検体検査機器は、今後さらなる成長が期待される分野です。
- 血球計数器では、5分類の最上位機種を発売します。独自の計測技術で高精度を実現するとともに、検査ワークフローの改善やシステム連携の強化を図りました。
- 臨床化学分析装置は、海外展開を加速してまいります。上海光電でCRP測定装置と試薬の生産を開始するほか、アジアへの展開も予定しています。
- インドの試薬合弁会社を完全子会社化し、免疫試薬部門を埼玉県朝霞市に移転する予定です。
- 今後も、血球計数、免疫測定における研究開発を強化するとともに、ポイント・オブ・ケアにフォーカスしたソリューションを提供し、事業拡大を目指してまいります。

# 消耗品事業

## 海外への積極展開

【消耗品・保守サービス売上高の推移】



- 消耗品・保守サービスの売上高は着実に拡大
- 特に消耗品の海外展開に注力

## 消耗品の生産拡大とコストダウンを推進

### 消耗品の国内生産拠点を拡充



川本事業所



富岡第二工場(2016年度内)

### SpO<sub>2</sub>/CO<sub>2</sub>センサ、AED用使い捨てパッド生産の自動化を推進

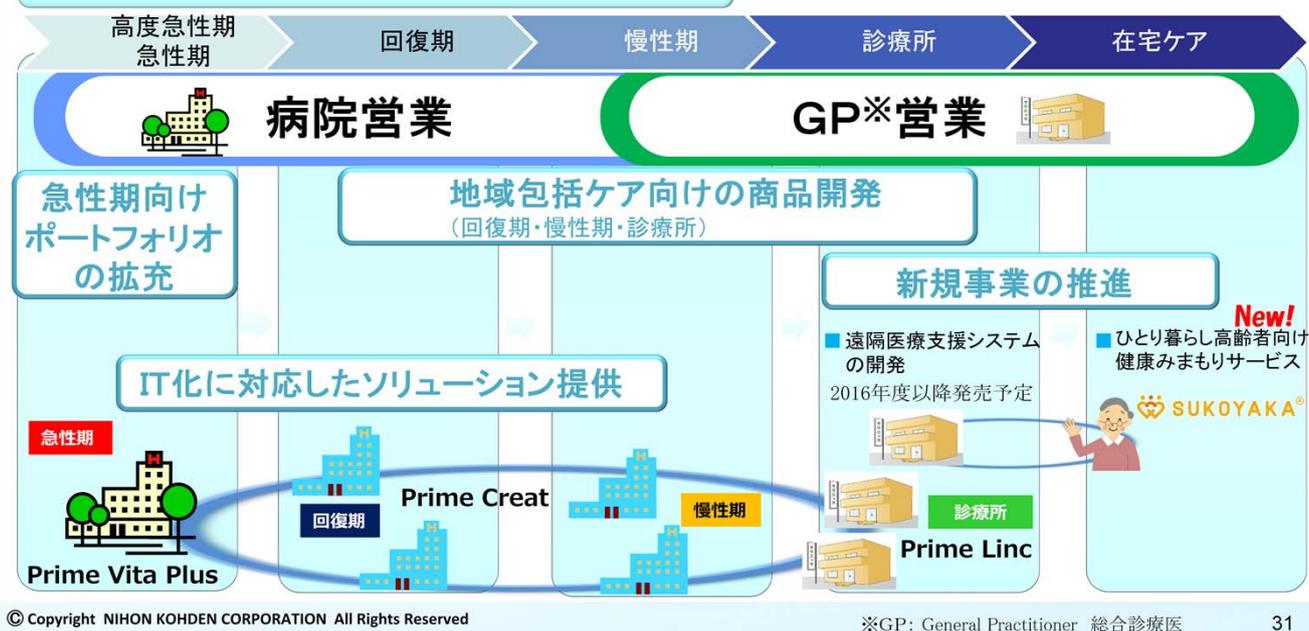


- 消耗品・保守サービス事業は、着実に売上が拡大しており、今後は特に、海外の消耗品事業の拡大に注力してまいります。
- センサ類等の消耗品関係のコストダウンと供給体制を強化するために、国内の生産開発体制を再編します。
- 現在の川本事業所に加え、新たに富岡第二工場をセンサとAED用使い捨てパッドの生産工場として再編し、生産の自動化とコストダウンを推進します。

### ③地域別事業展開の強化

日本：2025年医療・介護の将来像に合ったソリューションの構築

#### 市場別に営業組織体制を再編



- 日本では、2025年の医療と介護の将来像に向けた医療制度改革により、市場環境が大きく変化しています。
- 市場別の取り組みをさらに強化するために、営業組織体制を「病院営業」と「GP営業」に再編しました。
- 急性期病院市場では、商品ポートフォリオの拡充とIT化に対応したソリューションの提供により、急性期病院の高度化を支援する専門営業体制を強化します。
- 高齢社会における医療体制として整備が進められる地域包括ケアシステム向けの商品開発に注力するとともに、高齢者向け健康みまもりサービスなど新規事業の開拓に取り組んでまいります。

# 先端医療をリードするアメリカにおけるプレゼンスの確立

販売組織の再編により 3事業の連携、クロスセリングを強化

## 生体情報モニタ

・GPO/IDN対策強化※



コネチカット大学でモニタ商談受注

・消耗品売上の拡大



## 脳神経系群

・全米トップ50病院に注力



Barnes Jewish Hospitalで脳波計商談受注

・新商品の投入

**New!**

2016年  
発売  
(米国)



MEE-2000

Live View Panel

## 救命救急分野

defibtech



・新商品の投入



RMU-1000  
2015年発売  
(米国)

## サービスの充実

2016年2月東海岸ペンシルベニア州に  
技術サポートコールセンタを設立

日本光電アメリカ

生体情報モニタ市場シェア10%以上を目指す

※ GPO: Group Purchasing Organization 医療機関のグループ購買組織 IDN: Integrated Delivery Network 総合医療ネットワーク

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

32

- 米国は世界最大の医療機器市場、先端医療の中心であり、米国でのプレゼンス確立は、中長期の重要課題です。
- 米国では、販売組織の再編により、3事業の連携、クロスセリングを強化しています。
- 生体情報モニタでは、GPOやIDNへの対策を強化し、コネチカット大学のモニタ商談を受注しました。消耗品の販売拡大にも注力しています。
- 脳神経系群では、引き続きトップ50病院の攻略に注力しており、バーンズ・ジュエーイッシュ病院が新たな顧客となりました。さらに、手術中の神経モニタリング装置や遠隔診断をサポートするLive View Panelを発売し、シェア拡大を目指しています。
- デフィブテックも自動心臓マッサージ装置を発売し、救命救急分野でのプレゼンスが高まりつつあります。
- サービス体制の充実に向けて、東海岸に技術サポートコールセンタを設立しました。
- 引き続き、米国市場におけるシェア拡大に向けた施策を、強化してまいります。

# 成長をけん引する新興国市場でのシェア拡大

## 事業基盤の強化

中国

- ・新興国向け普及機の開発・生産拠点として展開
- ・検体検査機器事業の強化

上海光電

マレーシア

2015年9月ベッドサイド  
モニタの生産開始

日本光電  
ミドルイースト

日本光電  
韓国

日本光電  
インド

NKSバンコク

日本光電  
マレーシア

日本光電  
メキシコ

日本光電  
ラテンアメリカ

日本光電  
シンガポール

日本光電  
ブラジル

中南米 販売子会社 再編

2016年1月 日本光電メキシコ設立。南米の北部を日本光電メキシコ、南部を日本光電ブラジル管轄下に再編

- 成長を牽引する新興国では、医療のインフラ整備に伴う需要を着実に取り込むとともに、医療水準の向上に貢献してまいります。
- 中国では、新興国向け普及機の開発・生産拠点として、一層の体制強化を図ります。また、中国国内において高い需要が見込まれる検体検査機器の販売を強化します。
- マレーシアでは、昨年9月から、新興国向けベッドサイドモニタの生産を開始しました。
- 中南米においては、販売体制の再編を進め、新たにメキシコに販売子会社を設立し、4月から営業を開始しました。
- 今後も、新興国市場における販売・サービス体制の現地化を進め、事業基盤の拡充に取り組んでまいります。

# 成長をけん引する新興国市場でのシェア拡大

## 市場に合わせた商品戦略

### ハイエンド市場

#### 生体情報モニタ



日本製品

#### 心電計群



#### 検体検査



#### 脳神経系群



#### 医科向け除細動器・AED



医療の質・効率  
を高める  
ソリューション  
提案

### ローエンド市場



上海製品



・高品質・低コストの  
量販品ラインアップ  
拡充

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

34

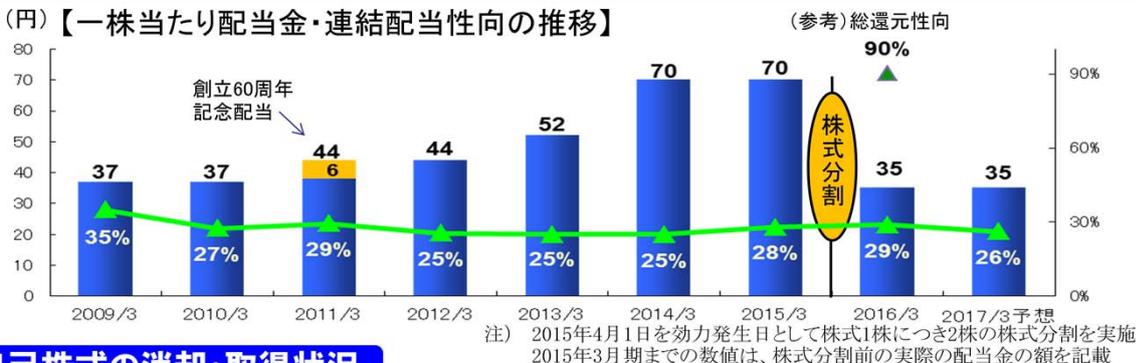
- 新興国においても、先進国と同等の機能が求められるハイエンド市場では、日本製品を供給し、医療の質・効率を高めるソリューション提案を強化します。
- ローエンド市場では、上海光電、マレーシアで開発・生産した、コスト競争力の高い量販品のラインアップを供給し、シェア拡大を目指します。

## 5) 株主還元策

### 【基本方針】

- 研究開発や設備投資、M&A、人財育成など将来の企業成長に必要な内部留保の確保に配慮し、**長期に亘って安定的な配当を継続**
- 株主還元は、配当を重視し、**連結配当性向30%以上を目標**
- 自己株式の取得は機動的に検討

(円) 【一株当たり配当金・連結配当性向の推移】



### 自己株式の消却・取得状況

2015/5

180万株を消却



2015/6、2016/3

計220万株を取得

自己株式保有: 407万株  
(持株比率: 4.5%)

- 利益の配分につきましては、研究開発や設備投資、M&A、人財育成など、将来の成長に必要な内部留保の確保に配慮しながら、長期にわたって、安定的な配当を継続することを基本方針としています。
- 株主還元は、配当を重視しており、配当性向は30%以上を目標としています。
- 自己株式の取得につきましては、今後も機動的に検討してまいります。
- 次期の年間配当金は35円、配当性向は26%の予定です。
- 自己株式につきましては、180万株を消却し、220万株を取得いたしました。

この資料に記載されている業績予想数値は、当社および当社グループ会社の事業に関連する業界の動向、国内外の経済情勢、各種通貨間の為替レートの変動など、業績に影響を与える要因についての現時点で入手可能な情報を基にした見通しを前提としております。同数値は、市況、競争状況、新商品導入の成否など多くの不確実な要因の影響を受けます。

従って、実際の業績は、この資料に記載されている予想とは大きく異なる場合がありますことをご承知おきください。

**【担当部署】 経営戦略部**

**【連絡先】 TEL03-5996-8003**